

久保田藩における幕末の領内通用銀④（最終回）

— 秋田封銀六匁の現存事例に触れて —

吉備古泉協会（津山支部）

眞銀吹 池上 宥昭

四、秋田封銀六匁

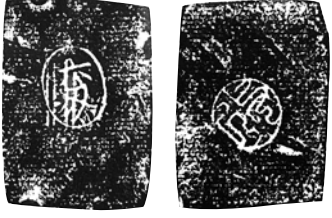
史料から秋田封銀は、久保田藩においては単に「封銀」（史料①・②・③・⑨・⑫）、または「封金」（史料①）や「符銀」（史料⑬）と表記されていたことが明らかである。

先の通り額面は、八匁・六匁・四匁・二匁が現存しているが、小野地家文書『永代録』（史料①）、『秋田沿革史』（史料②・③）、『秋田藩町触集』（史料⑨・⑫・⑬）においても、額面に関する記述は『永代録』の「壹両五分壹分迄」（史料①）とするもののみである。また、その内容も八匁から四匁・二匁に相当するものが存在したことがうかがえるものの、六匁の存在は不確かである。

それ故、六匁は日本銀行調査局においても、拓図（図⑦）を掲載するものの、「これは試作とみられている」と述べるにとどまっている。

ところで、六匁の現存事例は現在まで数えるほどである。最近のものでは第三六回銀座コインオークションに出品された六匁²が記憶に新しいが、この事例は都合三例目の現存事例であ

【表①】 秋田封銀六匁『日本貨幣図史』より

【図⑥】				
	著者・編者	【書名】	出版社	刊行年
	日本貨幣協会 編	『貨幣』第3巻第4号	日本貨幣協会	1959
	小川浩	『日本貨幣図史』第9巻	日本古銭研究会	1965
	小川浩	『日本の古銭』	人物往来社	1966
	小川浩	『日本古貨幣価格図譜』	日本古銭研究会	1971
		『青實楼先生喜寿祝賀記念全国貨幣大会之泉譜』	東海貨幣研究会	1974
	小川浩	『増補改訂古貨幣価格図譜』	日本古銭研究会	1974
	小川浩	『日本古貨幣変遷史』	日本古銭研究会	1983

【表②】 秋田封銀六匁『知命泉譜ひびき』より

【図⑦】				
	著者・編者	【書名】	出版社	刊行年
	陸原保 編	『東洋古銭価格図譜』	万国貨幣洋行	1970
		『貨幣商第一回記念泉譜』	日本貨幣商協同組合	1970
	田中桂治	『桂實銀婚記念泉譜』		1971
	日本銀行調査局 編	『図録日本の貨幣4』	東洋経済新報社	1973
	太田保 編	『日本古銭価格図譜』	万国貨幣洋行	1978
	小森善治	『知命泉譜ひびき』	偕宣社	1990
	日本貨幣商協同組合 編	『日本の貨幣一収集の手引き一』	日本貨幣商協同組合	1998
	田宮健三	「加賀百万石と地方貨幣の歴史」『第13回東京国際コイン・コンヴェンションパンフレット』	日本貨幣商協同組合	2002